

## 2017 年度目録委員会記録 No.9

### 第 9 回委員会

日時：2018 年 1 月 20 日（土）14 時～17 時

場所：日本図書館協会

出席：渡邊委員長、木下、河野、田代、津田、野美山、村上、横山

<事務局>三浦

#### [配布資料]

1. 刊行に向けてのメモ（2018.1.20）（5 ページ-A4、渡邊委員長）
2. 要確認事項（渡邊担当分等）（5 ページ-A4、渡邊委員長）
3. 「第 2 章 体現形（タイトル）」案抜粋（2018/1/19 修正）（11 ページ-A4、河野委員）
4. 関連の章表現の不統一（1 ページ-A4、平田委員）
5. 「第 44 章 資料と個人・家族・団体との関連」案（26 ページ-A4、村上委員）
6. 「#C.1 関連指示子：資料に関するその他の関連」（2018/1/19 修正）（11 ページ-A4、村上委員）
7. 「#C.2 関連指示子：資料と個人・家族・団体との関連」（23 ページ-A4、村上委員）
8. 2017 年度第 8 回目録委員会記録（案）（4 ページ-A4）

#### [報告事項ほか]

1. 議事録の確認

2017 年度第 8 回の記録（資料 8）を確認した。

2. 書誌調整連絡会議報告

津田委員より、1 月 18 日に国立国会図書館（以下、NDL）で開催された書誌調整連絡会議の報告があった。2 月中に NDL のホームページに記録が掲載される予定。

#### [検討事項]

1. 刊行に向けて

資料 1 に基づき、今後の作業スケジュールについて確認した。

- ・条文案を 1 月中にいったん確定させ、2 月に予備版公開用のファイル単位にまとめる。
- ・コメントを除去した原稿を作成し、2 月中に表記の統一を含めた全般チェック、参照番号に齟齬がないか網羅的チェックを行う。
- ・パブリック・コメントおよび全体条文案時点の検討課題への対応結果、目録委員会報告は渡邊委員長が準備中。
- ・予備版に含める付録は「A.1 片仮名表記法」、「C.1 関連指示子：資料に関するその他の関連」、「C.2 関連指示子：資料と個人・家族・団体との関連」、「C.4 関連指示子：個人・家族・団体の間の関連」、「D 用語解説」。「A.2 大文字使用法」、「A.3 略語使用法」は再検討し、可能であれば含める。含めない付録についても予備版公開を待たずに早めに検討に取りかかる。

## 2. 「第2章 タイトル（体現形）」について

資料3に基づき確認を行った。

・共通タイトルと従属タイトルなど、タイトルの例示で区切り記号法を使用している箇所すべてに「ISBN 区切り記号法を用いて記録した例」、「ISBD 区切り記号法を用いて対応関係を示した例」と明示した。

## 3. 関連の章全般について

資料4に基づき、関連の「記録の方法」における表現の不統一を確認した。#43.1.1の「関連先となる〇〇を識別できる情報を、次のうち一つ以上の方法によって記録する。」に統一することとした。

## 4. 「第44章 資料と個人・家族・団体との関連」について

資料5に基づき確認を行った。

・#44.0.2.1 著作と関連を有する「非創作者」を「著作等と関連を有するその他の個人・家族・団体のうちで創作者以外のもの」等へ置き換えてはどうかとの指摘があり再検討したが、まとめにくいため現状通り「非創作者」のままとした。

## 5. 「C.1, 2 関連指示子」について

資料6, 7に基づき確認を行った。

・#C.2でRDAのcreateの訳語として「作成」を使用している箇所があったが、該当部分を「創作」に修正した。

・#C.1の「作成」はcreateの訳語として使用している訳ではないため、「作成」のまま残す。

## 6. 渡邊委員長担当分等の検討

資料2に基づき確認を行った。

・「原綴形」という用語は使用しない。序説から削除する。

・#0.3.1の「また、実体を種類分けする場合」の「実体」はもともと「体現形」だったが、表現種別に「三次元資料」が存在するので、体現形に限定すると誤りとなる。「記述対象」は、記述の説明を行う前の箇所なので使用しにくい。「体現形または表現形」とする。

・#0.8.1では、例外的に区切り記号法等を使用するケースを挙げている。共通タイトル・従属タイトル等は「例外的に次の場合などは使用することがある」の「など」の範囲に含まれるものと解釈する。

・「記録の範囲」の冒頭の表現が「〇〇は、△△である」（例：#2.2.1.1.1）と「〇〇を、△△として記録する」（例：#2.2.0.1）に割れている。NDLでは記録の範囲は前者、記録の方法は後者の書き方にしよう意識しているがそろってはいない。「△△である」と定義ともとらえられる反面、「として記録する」は必須と受け取られる懸念がある。当面、統一を行わない。

以上